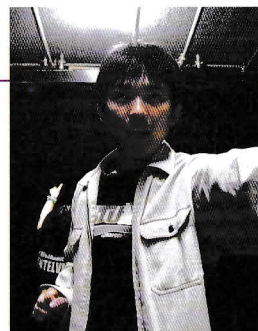


劇団 INTEL VISTA 公演／短編集

柳沢拓哉(八戸ポータルミュージアム開設準備室コーディネーター)



十月九日土曜日、スペースベンで、生涯二回目の劇団インテルビスタ公演を観劇した。今回は短編集—short story—と題した、「こたえ」「最終面接」「プッシュ」三本の短編。存分に楽しませていただいた。

前回の生涯初めてのインテルビスタ体験。「新・コウセンの客」では、今、こうして観劇している自分自身の立っている場所を否定無く掘り下げさせられた、ソフトだが深い内容に引き込まれたが、今回の男性四人の劇にも圧倒された。

男性四人はそれぞれに魅力が溢れた存在だった。

一人芝居での小ネタを含めて圧倒的な存在感と、本職の俳優さながらの身体的特徴を持った愛すべき演者である田面木氏。

絶対にまちで出会ったら目を合わせたくない迫力、汗、つばが光りまくった赤沼氏。

前回の「新・コウセンの客」でも印象にずっと残っていた、誰にでも似ているようで、決して誰でもない。後引く印象を残す植田氏。

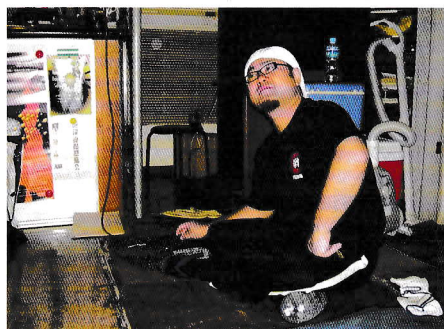
そして、幕が上がった後でも、本当の中学生や学生に見えてしまいうまで刷り込まれた上貝氏。

終劇後の見送りの笑顔もだけれども、やはり劇中の刺すかのような鋭い眼差しや、過不足無く鍛えられた上半身の強さだ。演劇を続けることのかっこ良さを、そこかしこに感じてしまう。ああ、羨ましい、かっこいい。翻って私は…。ああ、妬ましくも、羨ましい。

地方で演劇を続けるということの困難は並々ならぬものだろうが、HPで確認したインテルビスタは1996年創設とのこと、14年を経ていることになる。

劇作家、演出、スタッフの皆さんは、困難さなど微塵もみせず、このような極上の時間と空間を味合わせてくれるのだ。感謝の念は重なるばかりだ。

無論、こうしたスペースを提供する箱の主にも敬意を表したい。上質のパフォーマンスが展開される、即ち魂が籠ると、箱や主への敬意も増してくるものだ。いつも有難うございます。さて、三本の小編はそれぞれ



味わい深く一瞬も飽きさせないものだったが、力量不足の観客なりに感想を。

「こたえ」前回の印象に最も近かったのがこちらになるだろう。静かで深い印象が残っている。

「最終面接」一人芝居の演者と観客の距離が近いのも、最後の最後に客席一同に「やられた!」と思わせるのも、小演劇の醍醐味で心地よかった。

「プッシュ」汗!汗!汗!大丈夫か?大丈夫か!大丈夫か!大丈夫か!大丈夫か!非日常のものがたりを日常化してしまう、本の力、演出の力、汗!汗!汗!止まないことばの勢い!ありがとう!(こんなんでもいいんでしょか)

人生三回目のインテルビスタ体験を、妬ましさは封印して心待ちに待ちたい。素晴らしい公演だった。

Friday Amusement Negative Shop

○FANS874~877回 だべり場 2010.11 11/5,12,19,26 19:30start 11/13,27 14:00start 入場無料:夢を語る場です

演劇空間

スペースベン

■八戸市柏崎1-11-8
TEL. 0178-43-9876
FAX. 050-3588-8350
携帯. 080-6025-0990

※特別番組以外で午後7時30分～、料金/一般前売400円 高校生以下100円(当日100円増)
※チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

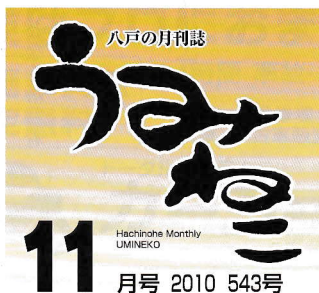
[HP] <http://spaceben.com/>

[Eメール] owner@spaceben.com

11月号好評発売中!

●今月のテーマエッセイ 鑑賞・観賞

ザボンの月を観る……………古 館 光 治
シネマ・デイズ……………石 橋 由 紀 子
フラワー・ホースから……………山 田 実
絵を理解する子……………佐々木絵理子
(南郷)に魅せられて……………平 繁 樹
孝行の鑑……………河 村 美 知 子



●今月のインタビュー

ナチュラリスト

工 藤 充 さん(56歳)に聞く

読む楽しさ **読物満載**

毎月ご愛読ありがとうございます

発行所/うみねこ出版社

八戸市六日町10 いわくとくパルコ3F
TEL・FAX 0178-44-6636